
俺は生まれながらの罪人

椿 小夏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺は生まれながらの罪人

【Nコード】

N1840M

【作者名】

椿 小夏

【あらすじ】

俺は生まれながらに背負っている罪と

生まれながらの2つの呪いがある

俺の呪い

俺は生まれる前から罪を背負っている。

俺には両親はいない。

両親は俺が生まれてすぐに死んだそうだ。

そして両親の罪を俺が背負っている。

その罪を償うために俺には2つの呪いがかかっている。

まだ小さかった俺は何も知らなかったんだ。

その2つの呪いのことを。

両親の罪の事を。

小学校5年生のとき、俺に初めて好きな人が出来た。

ドキドキしたのも……

胸が苦しくなったのも……

嫉妬したのも……

何もかもが初めてだった。

ある日、その子が俺に告ってきた。
すごく嬉しかった。

その日を境に俺達は付き合い始めた。

でも俺はその子と付き合いっちゃダメだったんだ。

いや…俺は誰かを好きになっちゃダメだったんだ。

俺達が付き合い始めて一週間たったある日

彼女は交通事故にあった。

原因は両親が俺に遺した2つの呪いのせい。

「紅葉君！また明日ね！」

彼女の俺が聞いた最後の言葉。

俺は俺の呪いの話を聞いて彼女の前から姿を消す事を決めた。

彼女が事故に合ったと聞いた直後、俺の目の前に悪魔と死神が現れた。

「君の彼女が事故に合ったのは、君の2つの呪いのせい」

いかにも、死神ですっていうヤツが俺に言った。

「俺の……呪い？」

このときの俺には何を言っているのかさっぱり分からなかったし、自分の置かれている状況も、なんで俺に呪いがかかっているのかも分からなかった。

「そう、呪い」

その死神の話によると、俺の呪いは

見たものは一生忘れないっていうのと、

俺と仲のいいヤツは絶対に不幸になるっていうの2つ。

だから彼女は不幸になったんだ。
俺のせいなんだ。

でも、その呪いが俺にかかっているのは両親が罪を犯したかららしい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1840m/>

俺は生まれながらの罪人

2010年10月9日04時06分発行